

No.28 大池（勝間田池）池畔から薬師寺三重塔、東大寺大仏殿への眺望

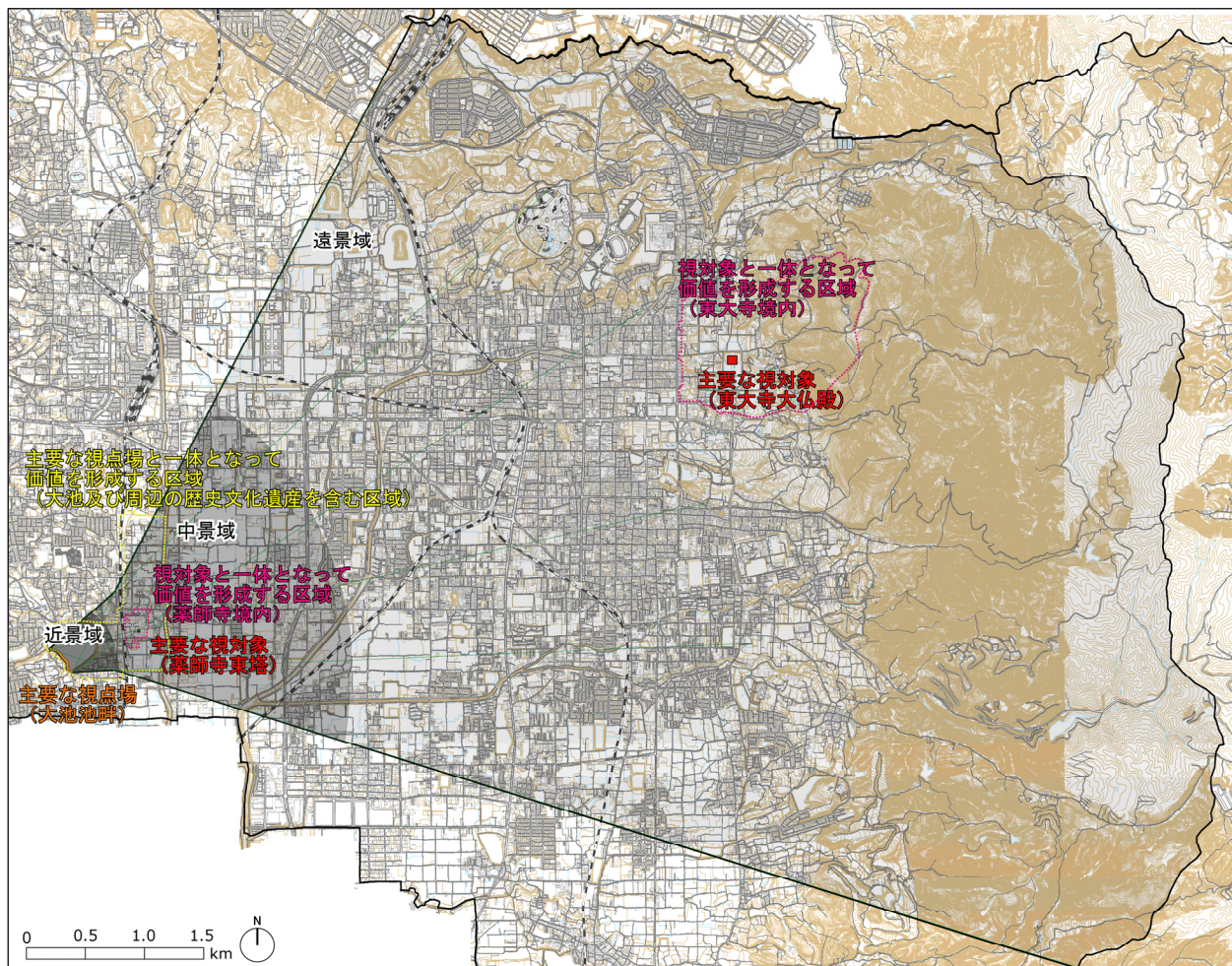
（１）眺望景観の概要

①眺望景観の構成

類型		Ⅱ：広がり型眺望景観
視点場	主要な視点場	大池（勝間田池）池畔
	主要な視点場と一体となって価値を形成する区域	大池及び周辺の歴史文化遺産を含む区域
視対象	主要な視対象	薬師寺三重塔、東大寺大仏殿
	主要な視対象と一体となって価値を形成する区域	薬師寺境内（史跡薬師寺旧境内の区域）、東大寺境内（史跡東大寺旧境内の区域）
眺望空間	近景域	大池（勝間田池）
	中景域	農地、市街地、薬師寺東塔、薬師寺境内
	遠景域	市街地、東大寺大仏殿、東大寺境内、若草山、御蓋山や春日山等の山並み
	主要な視点場と主要な視対象である薬師寺東塔とを結ぶ直線を中心に左右 30 度（合計 60 度）の区域であり、かつ、東部山並みの稜線までの区域とする。	



■ 眺望景観の構成図



②奈良らしさ

i) 目に見える景観の特性

近景の大池の水面が、広がりのある眺望景観をつくりだし、その向こうにそびえる薬師寺三重塔を象徴的に望むことができる。遠方には若草山、春日山、御蓋山などの山並みを望むことができ、目を凝らせば東大寺大仏殿や興福寺五重塔も望むことができる。

ii) 心で感じる景観の特性

○歴史的背景

薬師寺は、天武天皇9年(680)、皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して藤原京に建立され、平城遷都に伴って現在地に移された。当時は壮大、華麗な大伽藍が並び建ったが、幾多の災害、兵火などでそのほとんどを失った。昭和42年(1967)以降、金堂、西塔、中門、回廊、講堂が順次復元された。東塔(国宝)は創建時唯一の遺構である。金堂の本尊、薬師三尊像(国宝)はわが国仏教芸術の最高傑作のひとつに数えられている。

東大寺大仏殿は、正式には東大寺金堂という。奈良時代の大仏殿は、治承4年(1180)の平重衡などの南都焼討によって焼失している。建久6年(1195)の再建時の落慶法要には源頼朝なども列席した。永禄10年(1567)三好・松永の戦いによって再度焼失したが、公慶上人の尽力や徳川綱吉の寄進などにより、宝永6年(1709)に落慶した。これが現在の大仏殿であり、現在でも世界最大級の木造建築である。

○民俗文化・生活文化／文学・芸術作品／説話・伝承

薬師寺東塔は、「竜宮の塔の写し」ともいわれており、以下のような伝説が残されている。

「昔、薬師如来が天竺から渡ってきて、ある工匠に塔の建立を命じた。それから毎日塔の図を引いて苦心したがうまくいかない。ある夜、また薬師如来の夢のおつげがあり、竜宮城内の立派な塔を見ることができた。その形を写し取ることができ、ついに塔が完成したという。」

薬師寺は、明治時代に薬師寺を訪れたアーネスト・フェノロサが「凍れる音楽」と表現したといわれる。また、會津八一は薬師寺について以下の歌を詠んでいる。

「すゐえん の あまつ をとがめ ころもで の ひまに もすめる あき の そ
ら かな」

大池(勝間田池)については、清少納言の枕草子にも「勝間田の池」の記載がみられる。また、万葉集に古代の奈良の情景を想像させる歌が詠まれている。

「勝間田の 池はわれ知る 蓮なし しか言ふ君が 鬚なき如し」

(万葉集 16-3835、作者不詳)

大池(勝間田池)池畔から薬師寺三重塔、若草山への眺望は、写真家入江泰吉の作品でも有名である。

「平家物語」では、治承4年(1181)の平重衡などの南都焼討によって東大寺大仏殿が焼失した様子が描かれており、東大寺大仏殿のわが国の歴史のなかでの重要性を物語る。

「大仏殿の二階の上には千余人のぼりあがり、敵の続くをのぼせじと、橋をばひいてけり。猛火はまさしうおしかけたり。おめきさけぶ声、焦熱・大焦熱・無間阿毘の炎の底の罪人も、これにはすぎじとぞみえし」

また、和辻哲郎が「古寺巡礼」のなかで以下のように記している。

「大仏殿の屋根は空と同じ蒼い色で、ただこころもち錆がある。それが朧ろに、空に融け

入るように、ふうわりと浮かんでいる。その両端の
鴟尾のほのかに、実にほのかに、淡い金色を放って
いるのが、拝みたいほどありがたく感じられた。」

○眺望景観の構成要素の関係

iii) 情報としての景観の特性

○名所案内記・絵図等

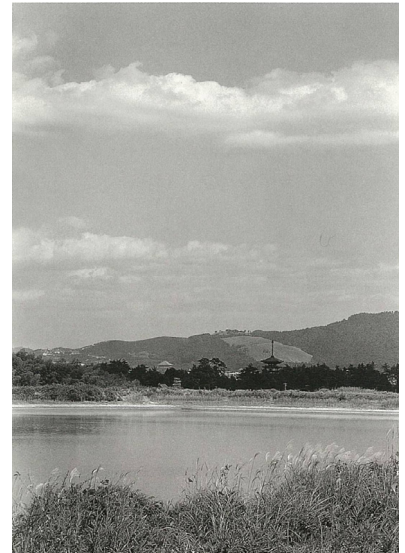
薬師寺は、「大和名所図会巻ノ三」(寛政3年(1791))、
「大和国絵図」(文化年間(1804~1817))、「奈良名所独
案内全」(明治12年(1879))、「袖珍大和路便覧一名芳
山花葉」(明治25年(1892))で紹介されている。

東大寺大仏殿は、「大和国細見図」(享保20年(1735))、
「大和名所図会巻ノ一」(寛政3年(1791))、「いんばん
や絵図」(明治3~15年(1870~1882))、「奈良名勝案内
図」(大正14年(1925))など、近世以来多くの名所案
内記で紹介されている。

○インベントリー

薬師寺は、世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、薬師寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。

薬師寺のある奈良西の京は、「人と自然が織りなす日本の風景百選」にあげられている。
東大寺 世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、東大寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。



■「勝間田池より薬師寺を望む」
(入江泰吉、昭和30年代)
(入江泰吉記念奈良市写真美術館編「入江泰吉の原風景 昭和の奈良大和路」より)

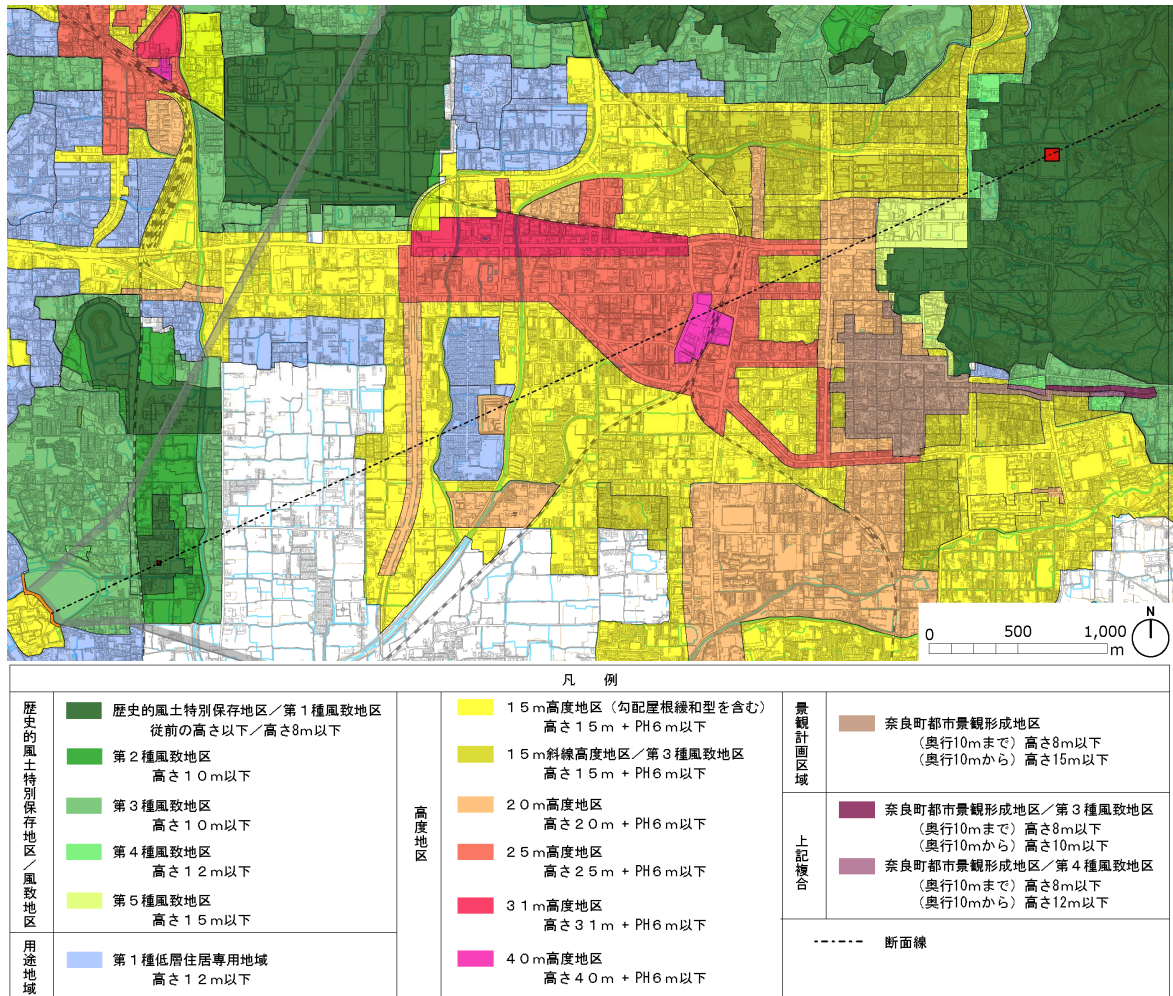
(2) 眺望景観の保全・活用の現状と課題

① 守るための視点

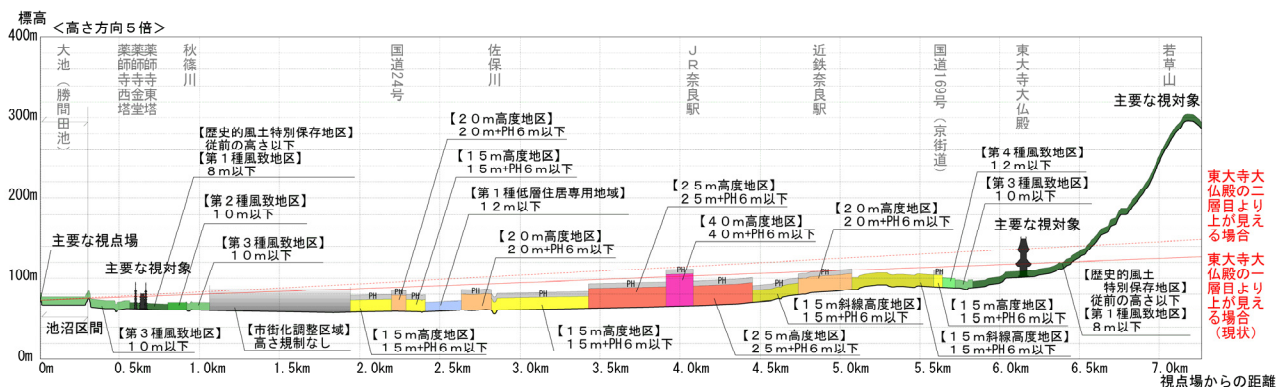
薬師寺東塔は国宝、薬師寺旧境内は国史跡として、保護されている。また、若草山は、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内、第一種風致地区や歴史的風土特別保存地区等により保護されているため、視対象については、新たな保全施策は求められない。

西の京東側の農地は、西の京景観形成重点地区として眺望に配慮した高さ、形態意匠とすることが規定されているが、法的には農業振興地域には指定されておらず、市街化調整区域のみである。西の京東側の農地の広がりを保全し、建築物等が乱立しないよう土地利用の誘導を図ることが求められる。

■ 現行法による高さ規制の状況



■ 現行法による高さ規制の状況（断面図）



JR 奈良駅周辺における塔屋部分の突出や屋上広告物に高彩度の色彩が使用されることにより、眺望が阻害されるおそれがあるため、塔屋部や屋上広告物等の形態・意匠等の誘導が求められる。

②整えるための視点

遠景の市街地に一部高い建物がみられ、市街地から突出して見える。現存するものについては、可能な限り修景措置を施していくことが求められる。

大池護岸の雑草が繁茂している。大池護岸の草地の適切な管理により、薬師寺三重塔への眺望を確保することが求められる。



■ 遠景の市街地の建築物による眺望景観の阻害状況

③活かすための視点

現行の都市計画高度地区の根拠のひとつとなっており、奈良市都市計画マスタープランでも重要な眺望景観としてあげられている。また、奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定され、奈良の景観宝地図にもあげられている。入江泰吉の写真によって有名になり、多くの写真家・観光客が訪れており、十分に認知されているといえる。しかし、アクセス道や視点場の整備が十分でないため、薬師寺と唐招提寺とその間の町並み、駅等を含めた西の京地域の全体的な整備方針の策定が求められる。

(3) 眺望景観の保全・活用の目標と方針

①眺望景観の保全・活用の目標

前述の「奈良らしさ」の整理より、大池（勝間田池）池畔から薬師寺三重塔への眺望の主題（コンセプト）は、「大池の水面の広がりの方こうに、若草山等の山並みと薬師寺の東西の塔をセットで眺められる眺望であること」といえる。

そこで、眺望景観の保全・活用の目標は、以下のとおりとする。

【眺望景観の保全・活用の目標】

～ 古都奈良の社寺と大和青垣が織り成す歴史的風土を感じられる眺望景観づくり ～

②眺望景観の保全・活用の方針

眺望景観が抱える課題を解決していくため、眺望景観の保全・活用の目標を具体化した「眺望景観の保全・活用の方針」を以下のように設定する。

【眺望景観の保全・活用の方針】

守るための方針

- ・建築物等の高さや屋上施設の形態意匠の景観誘導や大池（勝間田池）池畔の草地の適切な管理、農空間の保全等により、薬師寺三重塔や東大寺大仏殿の前景及び背景を保全する。
- ・薬師寺三重塔や東大寺大仏殿の保存及びそれらの周囲に広がる樹林の適切な管理により、それらが一体となって形成する歴史的風土を保存する。

整えるための方針

- ・屋上施設の修景による歴史的建造物等と調和した市街地の遠景を形成する。
- ・池畔の草地の管理により、近景の薬師寺の堂塔や遠景の東大寺大仏殿、若草山などへの広がり形成する。

活かすための方針

- ・薬師寺や唐招提寺などの周辺地域の歴史文化遺産やその他の奈良らしい眺望景観等と連携し、観光資源としての積極的な活用を推進する。
- ・薬師寺や東大寺、大池（勝間田池）などの歴史や文化、相互の関係などを通じて眺望景観の価値を多くの人々が理解し、見る人それぞれの感性により、多様な感じ方ができるような情報発信や空間づくりを推進する。
- ・案内板や休憩施設、周遊歩道等の整備や安全性の確保などにより、多くの人々が訪れ、眺望景観を楽しめるような空間の整備を行い、視点場としての大池（勝間田池）周辺の魅力の向上を図る。
- ・薬師寺境内及び東大寺境内の樹林の適切な管理により、境内の樹林と堂塔や塔頭が一体となって形成する歴史的風土を保存し、薬師寺及び東大寺のより一層の魅力の向上を図る。

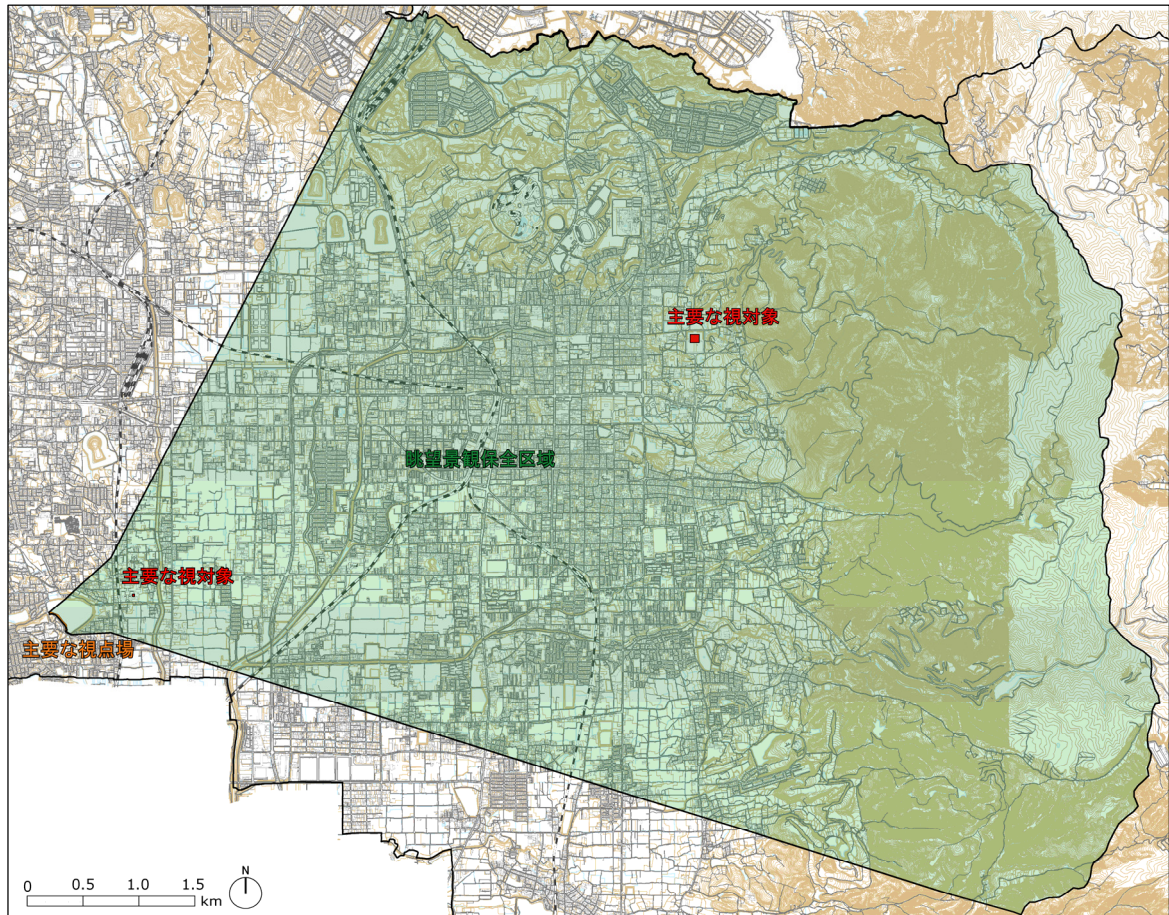
(4) 眺望景観の保全・活用の方策

① 守るための方策

○ 対象区域

(1) ①で設定した眺望空間全体を「眺望景観保全区域」とし、守るための方策の対象区域とする。

■ 眺望景観保全区域



○ 施策の方向性

建築行為や開発行為等に対する規制・誘導の手法に基づき、眺望景観保全区域を3つのゾーンに区分し、それぞれの以下の方策に基づき施策を展開していくこととする。

<ゾーンA：眺望景観の視点からの新たな規制・誘導策を講じる区域>

大規模建築物等が建築される場合、建築物の塔屋等が突出し、眺望景観のなかに映り込むおそれがある。従って、大規模行為のデザインガイドライン（都心景観区域及び市街地景観区域のうち、眺望景観保全区域を対象とする）、大宮通り沿道景観形成重点地区（眺望景観保全区域を対象とする）のデザインガイドラインの改訂による規模・塔屋等の基準の追加を検討する。

また、眺望景観を阻害するおそれのある高さや規模の建築物の建築等にあたっての景観シミュレーションや景観審議会風致デザイン部会委員の意見聴取の義務付けを検討する。

特に、JR奈良駅周辺の40m高度地区の区域については、塔屋などの屋上施設が東大寺大仏殿を遮るおそれがあるため、高度地区の指定変更なども見据えたより厳格な高さ規制を行うための検討・調整を進める。

西の京東側の農地の広がりや奈良の歴史的風土の重要な要素となるとともに、この眺望景観

の質を高めていることを鑑み、西の京歴史的景観形成重点地区のデザインガイドラインの見直しなどによる、より効果的な景観誘導を図る。また、これらを踏まえ、今後西の京歴史的景観形成重点地区の区域の景観地区や歴史的風土保存区域などの指定に向けた検討・調整を進める。

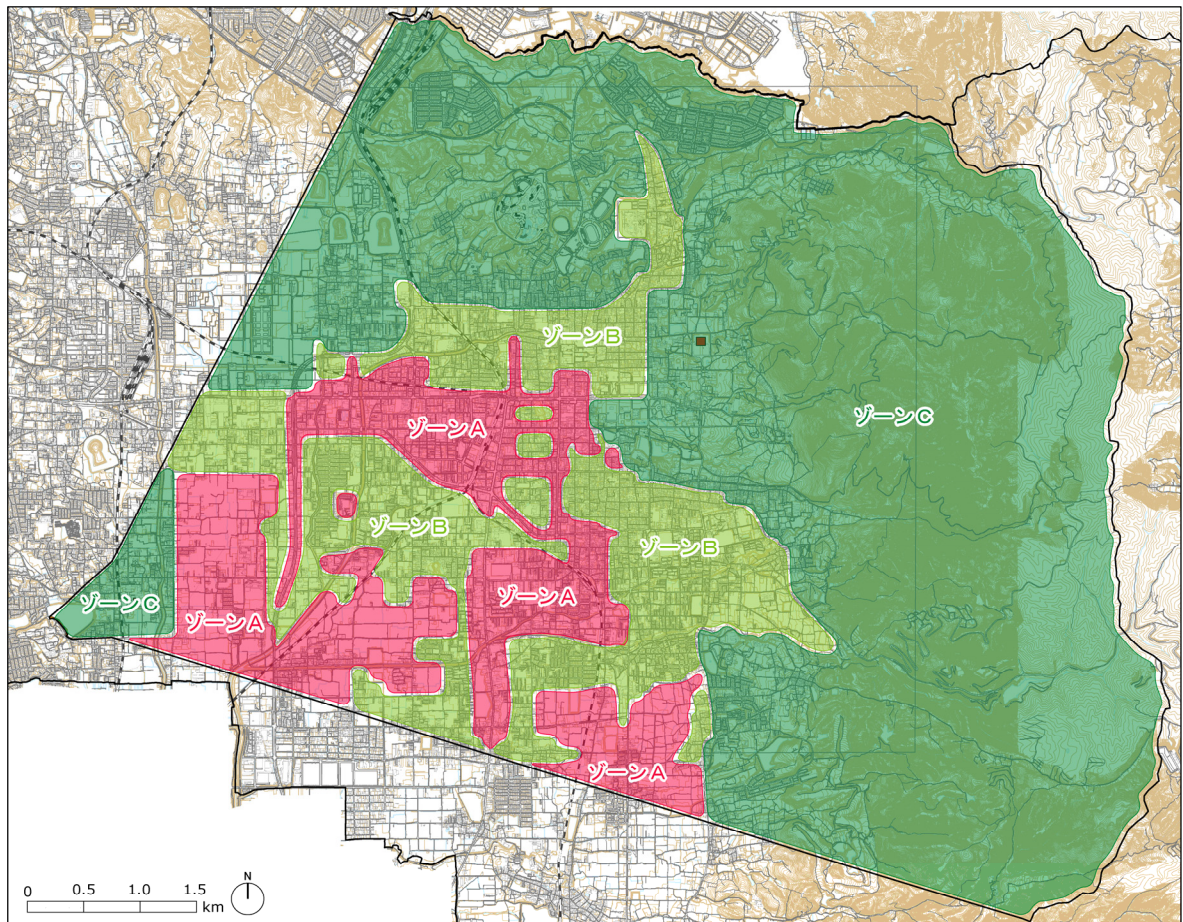
＜ゾーンB：現行の法制度に基づく規制・誘導を基本とし、必要に応じて配慮を求める区域＞

現行の高度地区や風致地区に基づき、建築物等の高さや形態意匠を規制・誘導するとともに、平城宮跡から東大寺大仏殿等への眺望景観を阻害するおそれのある高さや規模の建築物の建築等にあたっての景観シミュレーションや景観審議会風致デザイン部会の意見聴取の義務付けを検討する。

＜ゾーンC：現行の法制度に基づき規制・誘導を図る区域＞

現行の歴史的風土特別保存地区や風致地区、史跡や名勝、天然記念物等の文化財の指定に基づき、歴史的建造物の保存や樹林や山林等の適切な保存管理等を推進する。また、歴史的風土特別保存地区内については、買取り制度の活用による買取りと適切な維持管理を推進する。

■ 守るための施策の方向性に係る区域区分



②整えるための方策

○対象区域

「眺望景観保全区域」を対象とする。

○施策の方向性

景観阻害要素の除去や修景のための助成制度の創設を検討し、所有者等との調整のもとに屋外広告物や塔屋をはじめとした既に景観を阻害している要素の修景を進める。

地域住民が池畔の草地やため池の管理を実施するための技術的支援や経費の一部補助を行

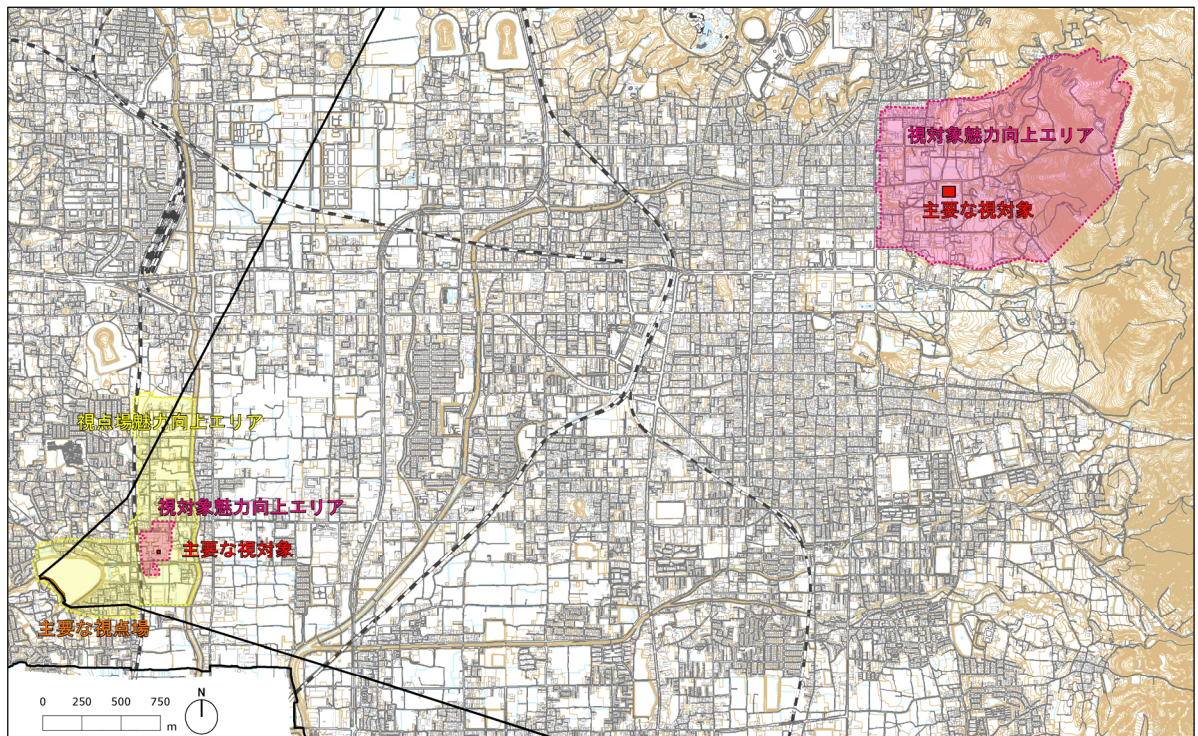
うための制度の創設を検討する。

③活かすための方策

○対象区域

(1) ①で設定した「主要な視点場と一体となって価値を形成する区域」を「視点場魅力向上エリア」、「主要な視対象と一体となって価値を形成する区域」を「視対象魅力向上エリア」に設定し、活かすための方策の対象区域とする。

■ 視点場魅力向上エリア及び視対象魅力向上エリア



○施策の方向性

<視点場魅力向上エリア>

薬師寺や唐招提寺、秋篠川等の周囲の周辺地域の歴史文化遺産と連携した観光ルートの創設や観光マップの作成などにより、眺望景観を観光資源として積極的に活用していく。また、より多くの人々が、眺望景観から薬師寺や東大寺、大池（勝間田池）などの歴史や文化、相互の関係などを感じられるよう、奈良市ホームページや情報誌等を通じて眺望景観に関する情報を積極的に発信する。

視点場となる大池（勝間田池）の魅力を向上するため、東屋や案内板の設置、池畔の散策路の整備、視点場周辺における駐車スペースの整備、自然素材による護岸整備、水質保全などの視点場の整備のための各種事業を実施するとともに、視点場へのアクセスのためのサイン等の設置やルート上の安全性の確保のための空間の整備や管理を継続して実施する。また、薬師寺や唐招提寺などの歴史文化遺産や周囲の集落と連携した眺望景観の活用に向けた計画づくりを推進する。

<視対象魅力向上エリア>

視対象の魅力の維持・向上のため、薬師寺及び東大寺については、境内の堂塔や塔頭と周囲の樹林とが一体となった歴史的風土を感じられるよう、境内の樹林の適切な管理を行う。